

# 道徳 だより

令和6(2024)年2月20日  
国立市立国立第七小学校  
校長 小畑 行広  
道徳担当 野間 大佑  
第7号

2月9日(金)に国立市教育委員会研究奨励校の研究発表会を行いました。そこでは、市内小中学校の先生方(一部、市外の方も参加されていました。)に向けて、各学級の授業とともに、七小の2年間の研究について発表をしました。また、講師の石丸憲一先生によるご講演も行い、多くの先生方から好評のお声をいただきました。今回は、その様子をお伝えしたいと思います。

## 授業公開

この2年間で合計9回の研究授業を通して学んできたことを基に、各学年、学級の子供たちの実態をしっかりと把握し、授業を公開しました。授業をつくるに当たっては、「この発問に対して、子供たちはどんな反応をするだろう?」や「子供たちの考えを深めるためには、どんな活動を取り入れた方がよいだろう。」など、夏休み明け頃からじっくりと話し合ってきました。授業では、子供たちの生き生きとした姿はもちろんのこと、子供たちと担任とのやりとりを通して、学級全体として考えを広げたり深めたりしていく様子を見ていただくことができました。実施後のアンケートでも、「児童と担任とのやりとりに温かさを感じた。」という感想が挙がっていました。200名以上の参観者が来校する中での授業は、子供たちにとって緊張や不安もあったかと思いますが、どの学級でも日常の授業に近い雰囲気で行えたことは、七小の教員の一人として、とても嬉しく思います。



## 研究発表会

授業後、体育館にて研究発表会を行いました。まずは、研究主任による研究に関するプレゼンテーションです。(研究主任は野間ですが…笑。)どのように七小の研究がスタートし、この2年間でどのようなことを学んだのかなど、スライドを用いてお伝えしました。その後、司会の梶先生、低学年から桑原先生、中学年から野間、高学年から押見先生、くるみ学級から太田先生が参加し、パネルディスカッションを行いました。事前に市内の先生方にとってアンケート結果を基に、道徳の授業づくりに関する悩みや七小として取り組んできたことなどをテーマに、研究してきた先生たちの「生の声」を届けました。



その後、教育委員会からの指導・講評では、「課題からではなく、強みを更に伸ばしていきたいという思いから研究をスタートしてきたことは素晴らしい。」という話がありました。七小が目指したところは、まさにその点でしたので、それが評価されたことは、大きな成果であると言えます。

最後に、2年間ご指導いただいた石丸憲一先生より、「ザワつく道徳授業のすすめ」と題したご講演をいただきました。これまでご指導いただきながら、七小が実践してきたことについて、分かりやすくお話しいただきました。



裏面に続きます

